

文教委員会資料②

1 所管事務の調査（報告）

(2) わくわくプラザ事業拡充に向けた取組について

資料 わくわくプラザ事業拡充に向けた取組について

こども未来局

（令和6年11月14日）

わくわくプラザ事業充実に向けた取組について

1-1 わくわくプラザ事業これまでの経緯

- 昭和37年留守家庭児事業開始
- 平成11年に待機児童解消のため川崎市青少年問題協議会から、意見具申がされ、わくわくプラザ事業の推進を図る
- 平成12年度から各区1か所計7か所でモデル実施
- 平成15年4月から全市立小学校114か所で実施
- 平成18年度から指定管理者制度の導入に伴い、指定管理者等が運営
- 平成20年2月から子育て支援・わくわくプラザ事業開始

1-2 わくわくプラザ事業概要

- 小学校施設を活用し、生活の場としてやすらげる時間と空間を確保するとともに、地域の人々との関わりを求め、心から遊び等を楽しみ、豊かな生活体験を通して、生きる力、創造性豊かな心、共感する心を育むように支援することなどを目的として実施
- 実施か所数
114か所（全市立小学校敷地内で実施）
- 開設時間
学校課業日：授業終了時から午後6時まで
学校休業日：平日は午前8時から午後6時まで
土曜日は午前8時30分から午後6時まで
- 対象者
当該小学校に在籍または、当該小学校区に在住する児童
- 登録者数（令和6年4月1日時点）
31,225人
- 一日当たり利用者数（令和6年4月平均）
全市：11,495人
1施設当たり平均：101人

【平成31年度から】

- ①学校休業日（平日）の開室時間を8時30分から8時に延長
- ②保護者への連絡用配信メールサービスを開始

これまでも利用児童やその保護者の視点に立ってサービスを拡充してきた

わくわくプラザ事業充実に向けた取組について

1－3 わくわくプラザ事業の充実に向けて

核家族化の進行等による子育てに負担を感じる家庭の増加や子育てニーズの多様化から、
わくわくプラザ事業には、様々なサービスの拡充が求められている。

【保護者からの主な意見・要望】

- 夏休みなど、学校の給食がないため、毎日お弁当をつくるのが負担。
- 利用に関する連絡を紙のカードではなく、アプリで簡単にしたい。
- お休みの連絡を電話ではなく、アプリでできるようにして欲しい。

⇒**子育てに係る負担をなるべく軽減したい**

【指定管理者からの主な意見・要望】

- 子どもが一斉に登室した際、入室の確認、退室時間と方法の確認に多くの時間と労力を要する。
- 紙のカードを忘れたり、書き忘れを保護者に連絡し確認する作業をもっと効率化したい。
- 利用統計の集計作業などをもっと簡単にできるとよい。

⇒**もっと子どもと向き合う時間を増やしたい**

【参考】＜わくわくプラザ事業の充実に向けたアンケート：令和5年3月2日から3月24日に実施＞
（わくわくプラザを利用している児童の保護者、利用していない児童の保護者を対象に2,919件の回答）

わくわくプラザ事業の充実に向けて取り組んで欲しいこと（複数回答可：回答数が多い上位3項目）

【わくわくプラザを利用している児童の保護者】

- ①学校休業日等における配食サービス : 461人
- ②アプリ等による入退室通知等のサービス : 422人
- ③様々な体験活動等の充実 : 388人

【わくわくプラザを利用していない児童の保護者】

- ①様々な体験活動等の充実 : 933人
- ②アプリ等による入退室通知等のサービス : 852人
- ③学校休業日等における配食サービス : 691人

わくわくプラザ事業充実にに向けた取組について

2-1 令和6年度夏季休業期間の配食サービスの試行的実施状況（26施設で実施）

【公益財団法人かわさき市民活動センター 15施設（15グループの指定管理を行う）】

- ＜弁当事業者＞ A事業者
- ＜実施期間＞ 7月22日から8月9日（15日間）
- ＜価格＞ 400円（配送料等を指定管理者が負担）
- ＜注文・決済＞ WEB上で注文、クレジット決済等

【株式会社理究キッズ 8施設（2グループの指定管理を行う）】

- ＜弁当事業者＞ B事業者
- ＜実施期間＞ 7月22日から8月27日（26日間）
- ＜価格＞ 538円、594円（配送料等込）
- ＜注文・決済＞ WEB上で注文、クレジット決済等

【株式会社明日葉 3施設（3グループの指定管理を行う）】

- ＜弁当事業者＞ C事業者
- ＜実施期間＞ 7月22日から8月23・26・27日（24～26日間）
- ＜価格＞ 550円、620円、690円（配送料等込）
- ＜注文・決済＞ WEB上で注文、クレジット決済等

【提供されたお弁当】



わくわくプラザ事業充実に向けた取組について

2-2 配食サービス利用実績

NO	わくわくプラザ	利用者数 (a)	注文数 (b)	注文率 (b/a)	NO	わくわくプラザ	利用者数 (a)	注文数 (b)	注文率 (b/a)
1	旭町小わく(活)	107	37	34.6%	1 4	久地小わく(理)	94	21	22.1%
2	東門前小わく(活)	126	49	39.0%	1 5	坂戸小わく(理)	97	21	21.6%
3	小田小わく(活)	69	15	21.8%	1 6	久本小わく(理)	109	41	37.9%
4	御幸小わく(活)	125	46	36.5%	1 7	東高津小わく(理)	129	39	29.9%
5	日吉小わく(活)	171	70	40.9%	1 8	末長小わく(活)	155	59	37.8%
6	今井小わく(活)	96	42	43.9%	1 9	宮前平小わく(明)	79	7	8.8%
7	東住吉小わく(明)	89	8	8.6%	2 0	西野川小わく(明)	47	4	8.9%
8	苅宿小わく(活)	115	36	31.5%	2 1	稲田小わく(活)	183	85	46.3%
9	大戸小わく(活)	121	55	46.0%	2 2	生田小わく(活)	77	33	42.5%
1 0	上作延小わく(理)	89	17	19.2%	2 3	菅小わく(活)	124	54	43.3%
1 1	南原小わく(理)	38	11	28.6%	2 4	百合丘小わく(活)	98	46	46.6%
1 2	高津小わく(理)	131	35	36.6%	2 5	東柿生小わく(活)	45	15	32.1%
1 3	下作延小わく(理)	82	21	26.0%	2 6	麻生小わく(活)	94	44	46.9%
全市平均							75	24	31.6%

※利用者数（わくわくプラザを利用した人数）、注文数（配食サービスを注文した件数）ともに実施期間中の一日当たりの平均
 ※(活)=かわさき市民活動センター (明)=明日葉 (理)=理究キッズ

わくわくプラザ事業充実にに向けた取組について

2-3 配食サービス実施後のアンケート

- 実施期間 令和6年8月28日から9月19日
- 対象者 実施期間中にわくわくプラザを利用した保護者 回答数1,341件
配食サービスを実施したわくわくプラザスタッフ 回答数200件
- アンケート内容 利用の有無、利用頻度、注文・決済方法の満足度、料金設定、弁当の味 など

【保護者アンケート結果（一部抜粋）】

- ①1度でも利用した 60.0%
- ②配食サービスの利用頻度
 - ・わくわくプラザを利用する日の半分以上 64.5%
 - ・わくわくプラザを利用する日の半分以下 19.2%
 - ・1回から2回程度 16.3%
- ③注文方法はどうだったか
 - ・簡単だった 60.6%
 - ・普通 32.7%
 - ・難しかった 6.7%
- ④料金設定はどうだったか
 - ・高い 28.3%
 - ・普通 66.3%
 - ・安い 5.4%
- ⑤弁当の味はどうだったか
 - ・大変美味しかった・美味しかった 60.6%
 - ・普通 25.7%
 - ・美味しくなかった・非常に美味しくなかった 13.7%
- ⑥総合的にどうだったか
 - ・大変良かった・良かった 86.2%
 - ・普通 10.1%
 - ・良くなかった・非常に良くなかった 3.7%

【スタッフアンケート結果】

- ①弁当の配布は負担だったか
 - ・非常に負担・負担 26%
 - ・特になし 74%

※「非常に負担・負担」と答えた主な理由に、弁当と一緒に届く名簿が保護者氏名であったりしたため、児童に配る負担感があった。
- ②空容器等の片づけは負担だったか
 - ・非常に負担・負担 15%
 - ・特になし 85%

※「非常に負担・負担」と答えた主な理由に、容器を洗ってから返却する弁当業者があり、それに対する負担感があった

【その他：弁当事業者へのヒアリング結果】

- ①長期休業期間は普段弁当を提供している、幼稚園等がお休みになるため、空いている設備を使って提供が可能である。
- ②今回実施したエリアより、配達エリアを拡大することは可能である。
- ③ある程度の注文数があることがわかったため、お弁当料金に配送料等を含める料金設定を検討する。
- ④子ども向けメニューを検討する。

わくわくプラザ事業充実に向けた取組について

2-4 アンケート結果等からの考察

保護者アンケートの結果からも、概ね6割以上の方がこの試行的な取組を利用しており、注文方法も簡単で、お弁当の味も「大変美味しかった・美味しかった」との答えが約6割であった。

また利用頻度も、わくわくプラザを利用した日の半数以上利用した方が6割以上いることから、配食サービスへのニーズが高い。



2-5 今後の検討の方向性

○料金設定にあたっては、「配送料等を指定管理者で負担する形態」と「配送料等もお弁当料金に含める形態」があったが、お弁当を持参している児童や、わくわくプラザを利用しない児童との受益と負担の公平性を考慮しながら、「配送料等もお弁当料金に含める形態」を軸に検討を進める。

○試行的な取組は、各指定管理者の自主事業として実施したが、令和7年度からの本市におけるモデル事業は、わくわくプラザ事業の充実に向けた取組として検討を進める。

○今回の試行実施結果も踏まえ、全わくわくプラザで長期休業期間中に配食サービスが安定的・持続的に実施できる手法の確立に向け、指定管理者及び弁当事業者等と協議・調整しながら検討を進めていく。

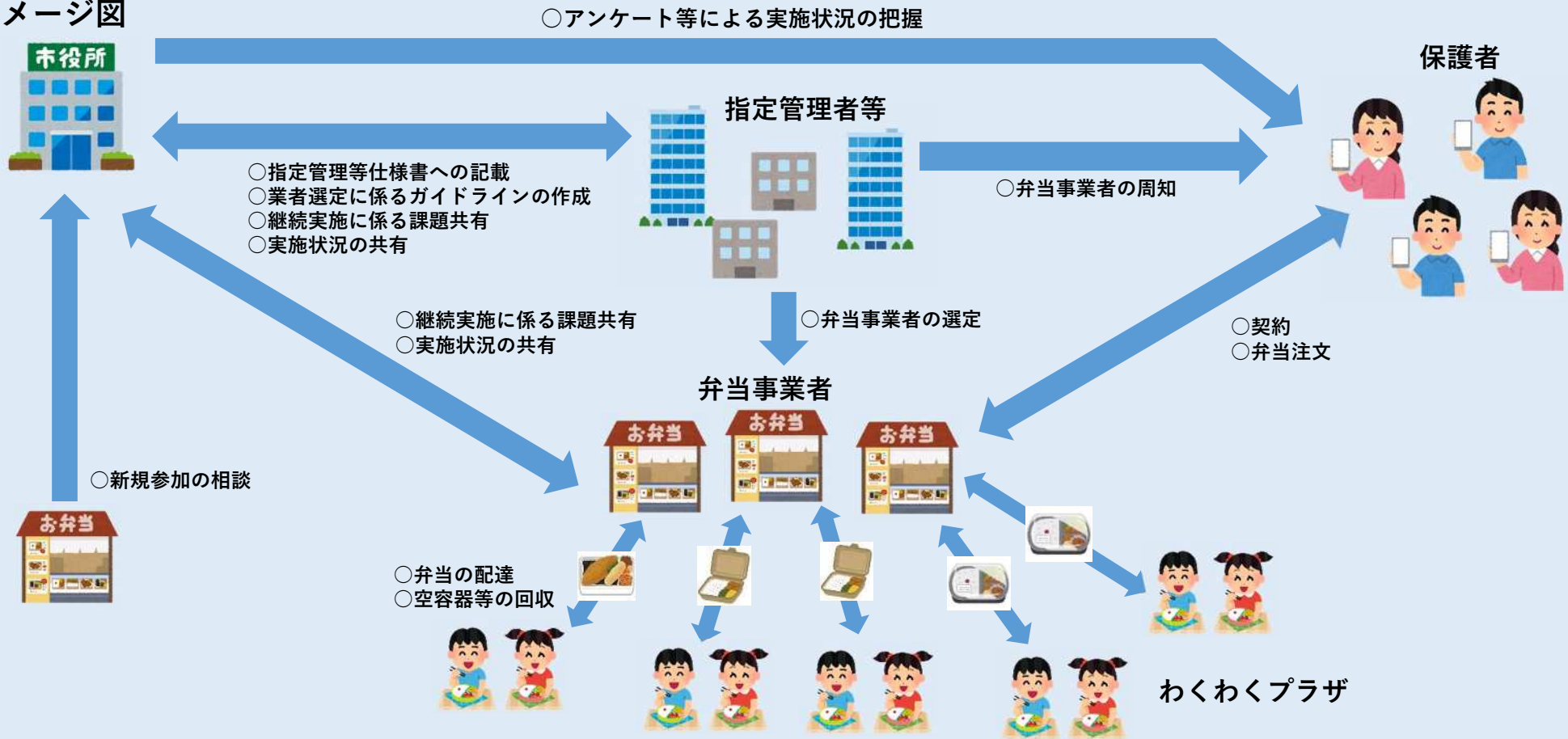


令和7年度夏季休業期間からの全わくわくプラザにおけるモデル事業の実施をめざす。

わくわくプラザ事業充実にに向けた取組イメージ

2-6 配食サービスの安定的・持続的な実施手法の検討

イメージ図



【本市の役割イメージ】

- ・ わくわくプラザにおいて、安全・安心に配食サービスが実施できるよう、弁当事業者選定等のガイドラインを作成。
- ・ 配食サービスが継続して実施できるよう、指定管理等仕様書への記載。
- ・ 配食サービスが安定的・持続的に行えるよう、弁当事業者へのヒアリングや、情報共有を行う。
- ・ 利用者の満足度を確認するため、アンケート等を実施し状況の把握を行う。
- ・ 新たに参加を希望する弁当事業者からの相談や情報提供を行う。

わくわくプラザ事業充実にに向けた取組について

3-1 入退室の現状における課題

現在は、保護者に参加カード（紙）に帰宅時間、帰宅方法、連絡事項等を記入してもらい、わくわくプラザ利用時に子どもに持参してもらっている。

子どもの登室時に参加カードの記載内容をわくわくプラザスタッフが確認し、帰宅時間等の管理を行う。

記載内容の確認と子どもの帰宅時間の管理作業に時間が取られてしまい、子どもとの関わりに使うべき時間が減ってしまっている。

また、利用統計等の報告のための集計も手作業で行っており、同様に、子どもとの関わりに使うべき時間が減ってしまっている。

3-2 入退室管理システム導入費用等

○導入費用：システム導入及び運用保守 15,735千円
（年間運用保守 22,031千円）

※管理用端末購入費 19,052千円（市費負担は6,350千円）

○試験的導入か所：令和4年度7か所、5年度7か所 計14か所

○全施設利用開始：令和7年1月予定



わくわくプラザ事業充実に向けた取組について

3－3 入退室管理システム導入による効果

○保護者の利便性向上

- ・今まで参加カード（紙）で連絡していたものが、アプリで利用の予定や帰宅時間等、利用に必要な情報の入力が可能となり、保護者の負担軽減が図られた。
- ・入・退室時に、保護者宛に通知が届くことで、利用状況を確認でき、保護者が安心して利用することができた。

○事業者の負担軽減

- ・紙の参加カードで管理していた入退室状況を入口に設置した専用端末で二次元バーコードを読み取ることで、毎日の入退室状況の確認が迅速になり、大幅に負担が軽減された。
- ・事前に、利用予定の情報を保護者が登録することで、利用予定の確認が容易になり、今までのような保護者に対する確認の連絡の必要がなくなった。
- ・その日の利用児童の情報をパソコン等の画面上で容易に確認することができ、児童との関わりの時間が増えるとともに、連絡機能を利用することで、保護者への情報提供に加え、利用者の声を聴くアンケート等の実施も可能となった。

○効率的な市の管理

- ・わくわくプラザの利用児童に係る情報が、本市のパソコン等の画面上でも容易に確認することができ、日々の利用統計等の報告の必要がなくなり、指定管理者等と市相互の負担軽減に繋がるとともに、災害時等におけるわくわくプラザの利用状況を迅速に把握することが可能となった。

3－4 今後の運営

令和4・5年度の試行的な取組の結果を踏まえ、令和7年1月（予定）から全わくわくプラザに導入し、効率的、効果的な運営を行い、市民サービスの向上を図る。